

男子部中等科・高等科

「個人・対人・集団における心理的影響の分析—より良い人間関係構築に向けて—」

菅野 広樹

「生活」の中で日々学び、成長する男子部の生徒たち。寮生活や学校生活では、共に学ぶ友人、先輩、後輩、あるいは、成長をサポートして下さる保護者、教職員といった様々な他者とのかかわりの中にある。

私は今回、男子部生に対し「社会心理学」を学びのテーマとして提示した。社会に生きる、人の心のしくみを分析する学問である。中学校・高等学校での学習課程には含まれない、より応用的な学問領域ではあるが、その思考方法や分析手法に触れることで「生活」をこれまでと異なる視点で客観的に見ることができる。それがまた「生活」を通じた学びをより豊かなものにするのではないかという思いからの発案である。

この学習活動に参加したのは、男子部中等科1年生5名、中等科2年生1名、高等科5年生3名の総人数9名である。8日間の活動を報告したい。

I. はじめに

1. 活動の目的

本グループでは活動に先立ち以下の3つの目的を共有した。

①研究についての知識理解

社会心理学をもとにした探究的な学びを進める中で、研究（探究）のプロセスや、思考法について理解を深める。

②より良い人間関係形成に向けて

人間関係のメカニズムを分析し、人間関係をよりよくするための手立てを考え、発表・報告する。

③伝える力

自分の考えや調査した結果を他者に伝える力を身につける。

2. 活動形態

個人での活動、グループでの活動、全体での活動といった複数の活動形態を組み合わせながら学びを進めた。学習の合間にはサークルタイム（輪になって意見や思いを言い合う時間）を設け相互の学びをより深いものにするとともに、活動を支え合った。また、毎日の振り返りシート記入や相互発表会を行う中で、自己評価、相互評価、教員からの評価を随時行い、学びを振り返る場面を多く設定した。

3. 活動計画

本活動は以下の表1に示す通り計画・実施した。

表1. 学業報告会活動計画

【1～2日目：事前学習 知識の整理】

0) アイスブレイク

1) 社会心理学について

2) 社会調査の手法を学ぶ

(1) 参与観察

(2) 面接法（インタビュー調査）

(3) アンケート調査

3) 社会調査の練習（学外にて実施）

【3～5日目：調査】

1) 調査の目的・方法を定める

2) 調査対象と調査場所について条件を整理する

3) 調査する

4) 調査したものをまとめる

5) 考察

【6～8日：発表に向けた準備】

1) 発表方法、発表者と役割の決定

2) 発表に向けた準備

3) 発表資料の作成

4) 発表の練習

II. 活動内容

生徒が取り組んだ主な活動についてその概要と指導上留意した事柄を以下に記す。

(1) アイスブレイク

中学1年生から高校2年生までの異年齢集団で組まれたこのグループではお互いを知るためのコミュニケーションワークからスタートした。初日は良い天気だったため男子部芝生に出て「パスデイチェーン」や「山手線ゲーム」などを行った。

(2) サークルタイム

活動は2日目の社会調査の練習から4つのグループに分かれて進めたが、全体での取り組みやそれぞれの思いを共有する場面を設けた。全員がサークル(円形)になるように座り、話すことが決まった人から順に挙手をして一人ずつ話していく。その際、話す人に注意が向くように、話し手にボール(テニスボール)を転がし、話し手はボールをもって話すようにした。

サークルタイムは一日の中で、開始・中間・終了の3度おこなった。

(3) 文献の読み合せ

基本となる社会心理学の知識をまずはごく簡単に学習した。進め方は、小口孝司〔監修〕(2013)「よくわかる社会心理学」ナツメ社をテキストとし、社会心理学の特徴や調査方法について読み合わせる形である。その後、研究テーマを検討する準備として付箋を使ってブレインストーミングを行った(写真1)。



写真1 付箋を使って研究テーマをブレインストーミングしている様子

(4) ロールプレイング

社会心理学を体験的に知るためにロールプレイングを行った。人気アニメの「サザエさん」を題材にし、「もしも、サザエさんが働きたいといいだしたら、サザエさんの家族ではどのような心理的影響があるでしょうか」と問いを立てた。時間は10分間である。9人のうち、7人がサザエさん家族を演じ、2人は観察者として参加した。そして、役割を変えて二度同じことをおこなった。

この活動の狙いは、家族という社会の中にも暗黙のうちに決められた役割や相手に対する思い(要望)が存在していること、また、立場によってさまざまな心理的負荷がかかっていることを感じるとることにあつた。

(5) 動画視聴

心理学の実験について特集されたテレビ番組を視聴し、心理学実験の方法について学んだ。同時に、人体実験の危うさについて考える機会とし、調査者には高い倫理観が求められることを伝えた。

(6) 調査手法の学習

調査には、アンケートなどの量的な調査と参与観察・インタビューなどの質的な調査があることを示し、それぞれの特徴を具体例とともに伝えた。

(7) 学外での調査練習

学んだ調査手法をフィールドで実際に練習する機会を設けた。調査手法は参与観察とし、ひばりヶ丘駅周辺でグループごとに調査した。

調査の練習テーマはグループごとに決めた。「踏切が鳴り出したとき、人はどのような行動をとるか。またその人の特徴」や「ひばりが丘駅の改札における、電子マネー利用者と切符利用者の特徴(写真2)」といったテーマがあつた。(調査練習のテーマは心理的なものと限らなかった。)

(8) 実際の調査・まとめ

調査対象は自由学園男子部生とし、男子部をより良い集団とするための調査として、それぞれのグループがテーマ設定を行った。

調査の手法は自由とした。4グループのうち、2グループがアンケート調査。2グループが実験調査をおこなった。

調査した結果は、ポスター(A1版)にまとめた。その際、研究目的・調査方法・調査結果・考察・参考文献を記入するよう指示した。



写真2 ひばりが丘駅改札前での調査の様子

(9) グループ内報告会

グループ活動のまとめとして、また、報告会の練習としてグループ内で報告会をおこなった。相互評価表を用意し、他のグループへの評価・アドバイスをを行った。コメントは good (良い点) と Better (改善することでさらに良くなること) の 2つを書くようにしている。相互に成長を促す評価になるよう設定した (写真3)。

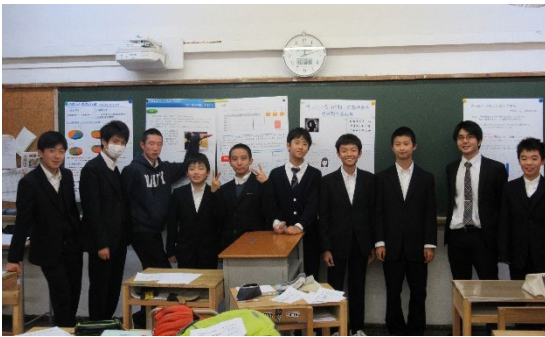


写真3 グループ内発表後の集合写真

III. 学業報告会

学業報告会はそれぞれのチームが研究内容を1枚のポスターにまとめ報告した。ポスターを掲示し、その前にメンバーが立ち、参加者への質疑に答えた。

また、高校2年生の3名は活動全体の写真や動画を編集し、展示したポスターのそばにテレビを設置し、映像を流すという工夫をした。発表者のテーマとメンバーは表2に示す通りである。

表2. 学業報告会の発表テーマとメンバー

	発表テーマ	メンバー
1	「話している時の相手の動きから読み取れる心理」	中1…1名 中2…1名
2	「年齢に応じた反応の違い～男子部生の優しさは?～」	高2…3名
3	「人の疲れと感情と行動」	中1…3名
4	「男子部生は団体を好むのか」	中1…1名

IV. おわりに—成果と課題—

社会心理学という応用的な学問に触れる新鮮さや、異年齢かつ少人数のグループ活動が生徒の学習を生き生きさせたといえる。

生徒からは「興味深く学べた。心理学への関心が高まった」や「グループでお互いに刺激し合って活動できた」という声があった。

一方で、内容の深まりには課題がある。限られた時間の中で中高生が混合で学ぶには学習内容の精緻化が重要といえる。また、関心に合わせた自由な学びということを大切にしつつも、年齢や理解度に合わせた学習の段階的な補助が適切になされる必要がある。

最後になるが、今回参加した9名の生徒は8日間の研究活動に熱心に取り組んだ。このことを高く評価したい。そして、この学びを糧に、今後も自らの関心を広げ、深く探究していくことを期待する。

V. 参考文献

- (1)小口孝司〔監修〕(2013)「よくわかる社会心理学」ナツメ社
- (2)サトウタツヤ・鈴木直人編 (2017)「心理調査の基礎」有斐閣
- (3)渋谷昌三 (2017)「他人の心理学」西東社
- (4)井上隆二・山下富美代 (2016)「図解雑学社会心理学」ナツメ社